EasyISTR ver 2.15 の紹介

Ver 2.14に対し以下を追加

- 1. 等分布荷重の設定
- 2. 主応力(ひずみ)の主値とベクトルの出力
- 3. abaqusの境界条件の取り込み



荷重の設定は、「CLOAD」で設定するが、 この設定は、各節点に同じ荷重を設定する為、 節点密度に応じた荷重分布となってしまう。

この面にCLOADを設定し 引っ張る設定



結果(変位を出力)



メッシュの細かい部分の変位が 大きくなってしまう。 (等分布荷重ではない。)

等分布荷重が設定できるように、変更

等分布荷重を設定する為に、要素face面の面積から 荷重を算出し、この荷重を各節点に配分する。

一次要素:各節点に均等に配分
二次要素:形状(三角形、四角形、線分)に応じて
主節点と中間節点に配分(下図)



CLOADの設定を修正



設定後の制御ファイルの内容 nodeForce :従来 :トータル荷重 aveForce : 等分布荷重 trueForce # Boundary Condition # !CLOAD, GRPID=1, forceType=trueForce, value=0.0, 0.0, 100 load, 1, 0.0 設定値 load, 2, 0.0 load, 3, 0.0 1, 1, 0.0 1, 2, 0.0 1, 3, 0.236934487031 2, 1, 0.0 節点No毎に荷重を設定 2, 2, 0.0 2, 3, 0.0911325 3, 1, 0.0 3, 2, 0.0







等分布荷重の設定の為、 メッシュのサイズに関係なく、モデル全体が均等に変形する。

2. 主応力(ひずみ)の主値とベクトルの追加 7/13



2. 主応力(ひずみ)の主値とベクトルの追加 8/13

片持ちはりの解析(変形図)







主応力の値(圧縮or引張)とその方向が確認できる。

3. abaqusの境界条件の取り込み

abaqusの境界条件をFrontISTR用に変換する。 (静的解析用のkeywordを変換する)



abaqusの境界条件の取り込み 3. 10/13変換例:beam10p.inp(calculixのサンプルファイル) <abagus> <FrontISTR> *NSET,NSET=FIX 1,4,2,6,5,8,3,9,7 *NSET,NSET=LOAD # Boundary Condition # 10, 15, 12, 13, 14, 18, 11, 17, 16 ***BOUNDARY ! BOUNDARY** 1,1,2 節点Noで設定 node_1, 1, 2, 0.0 3,1,1 **!BOUNDARY** FIX,3,3 node_3, 1, 1, 0.0 *MATERIAL, NAME=EL **!BOUNDARY *FLASTIC** FIX, 3, 3, 0.0 210000.,.3 !CLOAD *SOLID SECTION, ELSET=EALL, MATERIAL=EL LOAD, 2, 1. *****STFP *****STATIC *CLOAD LOAD,2,1. *NODE PRINT, NSET=NALL U,RF

3. abaqusの境界条件の取り込み ^{11/13}

inpファイルを指定して、「ファイル変換」ボタンをクリックすると、 メッシュ変換に引き続き、境界条件を変換する。

	EasyISTR for F	rontISTR (ver	2.15-160116)	
設定項目 ▼ FrontISTR analysis FistrModel.msh 解析の種類 材料物性値 ▶ 境界条件 時間変化 ステップ解析 ▶ solver post	メッシュ変換 〇 unv2fistr abaqus2fistr	ファイル名: beam10p.inp	参照	. ファイル変換
	スケール変更 倍率:	1.0		倍率変更
	-メッシュ内容 modelSize(xyz): 1.0 1.0 8.0 nodes 90 elements type:342 31		mesh読み込み 形状確認	
	EGRP EALL 31 NGRP FIX 9 NGRP LOAD 9 NGRP node_1 1 NGRP node_3 1			
直接、要素No、節点Noで 境界条件を設定している場合は、 そのNoのGROUPを作成する。				
folder開< 制御fil	e編集 meshFile編集	端末起動	folder内クリ	ア 閉じる

3. abaqusの境界条件の取り込み



4. まとめ

・等分布荷重 等分布荷重は、面や線に設定できる。 ANSYSと同様な設定が可能になった。

・主応力 主応力(ひずみ)やmises応力(ひずみ)に続き tresca応力(ひずみ)も追加。→最大せん断応力(ひずみ)

 $\sigma_{tresca} = \sigma_1 - \sigma_3 = 2 \tau_{max}$ 主応力(ひずみ)から算出している。

abaqusの境界条件の変換
現状線形静解析用のkeywordのみだが、今後非線形や
動解析用も追加していく。